

平成 26 年 2 月 13 日

釜石市議会議長 海老原 正人 様

会派名 21世紀の会
代表者 木村 琳藏



会派視察調査報告書

当会派所属議員による視察調査を下記のとおり実施しましたので、報告いたします。

記

- 1 視察項目 「いわてポートセミナー 2014」への参加
- 2 日 時 平成 26 年 1 月 31 日 (金) 16:00~19:00
- 3 参加者 4名
木村 琳藏 平野 弘之
古川 愛明 佐々木 義昭
- 4 場 所 ロイヤルパークホテル (東京都中央区)
- 5 内 容 別紙のとおり



〈 目的 〉

「いわてポートセミナー2014」東京開催への参加は2度目。北上開催を含めては5度目である。港湾の物流機能の充実、地域への工場や関連企業誘致等の大きな武器となる為、各自治体では地元港湾の売り込みを加速させている。

当市ではH23の東日本大震災以降、早期の公共埠頭の復旧に依り、H24、H25のコンテナ取扱量が震災以前の実績よりも大幅に増えている。

(H23：256TEU、H24：1,759TEU、H25：2,036TEU)

H26年度は水産物を積載出来るリーファーコンテナの搬送体制(H25.9～)が出来た事等から、3,000TEU～4,000TEUの見通しを立てているものの、各自治体間競争も激しい事から、1日でも早く実績を伸ばさせ、県内はもとより、東北での物流港としての一角を担うべき位置付けを目指す。

その為の環境づくりとし、県知事や関係部局へ、ガントリークレーンの設置や上屋施設の整備拡充の要請。又、行政当局や地元港湾事業と共に県内外、そして首都圏の荷主企業や船社等にPR、セールスし、港湾振興を促進する目的でセミナーに参加した。

(研修内容)

■第1部 ポートセミナー

プレゼンテーション

- 岩手県知事 達増 拓也
- 大船渡市長 戸田 公明
- 釜石市長 野田 武則
- 宮古市長 山本 正徳
- 久慈副市長 星 文雄

※岩手県及び県内港湾所在市における、復旧、復興状況や港湾利用促進に向けた取組み事例の紹介等を行った。(別資料)

■第2部 情報交換会

※セールスや名刺交換した企業は名簿に赤印。(別名簿)

(感想)

今回は首都圏中心のメジャーな荷役企業、運輸会社の参加が目立ち、前回参加150名を上回る200名程の参加で盛況だった。他自治体首長のプレゼンテーションでは、港湾利用を促す為、各種補助金制度を強くアピールする等、地域間競争の激しさが印象として残った。

知事からは、釜石沖の海洋エネルギー実証実験の実施で、釜石港湾利用のポテンシャルにも触れ、当市の今後の“まちのあり方”として、海(港湾、漁港)の活用の必要、重要性を痛感。現在当市として数少ない日のあたる産業としての港湾振興をより促進し、釜石市の流通経済に貢献して行きたいと思う。

このセミナー参加と同時に、トヨタ完成自動車の釜石港利用の復起が実現する迄、会派として、出来るだけ当局関係部局と連携して行きたい。